

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい

赤井康彦 安藤博 辻真理子 八木嘉之 小川喜三郎

(2) 実施日：

7月22日（火）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

本市では、本年3月に健康寿命を延ばし、生き生きとした元気な市民が増え、心身ともに健康で安心して暮らし続けられることを目指し「ひこね元気計画21（第2次）健康推進計画・食育推進計画」が策定されたところであり、高齢者の健康寿命を延ばすことが、本市にとっても極めて大切である。

(2) 本市における課題

「ひこね元気計画21（第2次）健康増進計画・食育推進計画」に基づき、具体的な取り組みが進められると思うが、継続的で実効性のある取り組みが求められる。そのためには、個々人の意識高揚をいかに図り、健康増進のきっかけづくりをどのように仕掛けていくのが課題である。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

健康寿命を延ばすため「げんき輝き手帳」を作成・配付され、具体的な実践活動を展開されている自治体を調査する。

(2) 選定地： 岡山県真庭市

【3. 調査結果】

(1) 内容

○げんき輝き支援事業「げんき輝きづくり教室」について

<概要>

平成23年度より事業を開始され、地域の集会や老人クラブ単位など5人以上での申請を受付、地域の公民館などを会場に開催されている。

<目的>

地域の中で定期的に集う習慣をつけることで高齢者の居場所づくりに努め、自主的な介護予防活動の定着と継続を狙いとしている。また、地域に出向くことで、教室に参加していない方々の情報収集を図り、支援が必要な人を早期に発見できる効果がある。

<内容>

3ヶ月6回のコースで、筋力アップ、体操、レクリエーション、口腔ケアなどの教室を実施。また、要請があった場合は出前講座も実施されている。平成25年度実績で、教室開催延べ数は145回で、参加者延べ数は4,370人である。

<げんき輝き手帳について>

介護予防の促進、定着化を図るために介護予防手帳を作成。事業予算は、地域の元気臨

時交付金により作成された。手帳は、ばらまき的に配付するものでなく、介護予防教室に参加した人を対象に配布し、あくまでもきっかけづくりに主眼を置いた活用としている。今日までに、5,000部程度の手帳が配られている。

(2) 考察

地域包括支援センターは直営であり、本事業の実施主体は、地域包括支援センターが行っている。在宅介護支援センターや社会福祉協議会との連携に関しては問題ないとの説明であった。本市において、より効果の高い事業展開を図るためにも、関係機関との連携強化策は不可欠である。

周知方法は、民生委員会や医療・福祉施設の連絡会の機会を捉えて実施されている。「ひこね元気計画21」の周知方法について、万全を期す必要がある。

教室で行われているメニュー（ボールを使った体操、歌、ゲームなど）を体験させてもらった。3名の支援員が非常に熱心であることが印象に残った。